

急がれる志摩地域の 救急医療体制の整備

中嶋 年規 議員
(自民みらい/志摩市選出)



問

志摩病院の指定管理者に応募のあった地域医療振興協会の事業計画書の要旨では、救急医療がすぐに回復するわけではなく、移行後少なくとも3年間は現状の維持しか期待できません。

移行までの救急医療体制をどう整備し、また、移行後もすぐに救急体制の回復が期待できないな



県立志摩病院

らば、病院事業庁として、独自の手法でを講じる必要があると考えますが、いかがですか。

答

指定管理者に引き継ぐまでに、救急医療体制を少しでも回復させるため、県内外の医科系大学などへ医師の派遣依頼などを行っていきます。

移行後の救急医療体制の回復については、引き続き、三重大学からの協力を仰ぐなど、指定管理者と連携しながら、救急担当医師の確保に努めます。

その他の質問事項

○漁業を元気に水産県・三重の復活を ほか

河川の堆積土砂対策

日沖 正信 議員
(新政みえ/いなべ市・員弁郡選出)



問

河川に土砂が堆積し河床が上がると、川が増水した際に、氾濫などにより災害を誘発する恐れがあります。

堆積土砂の撤去については、河床掘削や砂利採取業者による堆積土砂の活用など、さまざまな対策が取られていますが、より確実な方策を検討するため、県・市町・関係企業団体で協議の場を持つことを提案します。

答

河川の堆積土砂対策は、河川の流下能力を向上させ、災害の未然防止に有効であり、河川管理上重要と認識しています。

今後とも、市町、関係者と協議しながら、河川堆積土砂の撤去に努めるとともに、現場の状況に応じた手法を組み合わせて、治水安全度の向上に取り組んでいきます。



その他の質問事項

○雇用を確保するための取り組み ほか

森林整備に関わるカーボン・オフセットの取り組み

西場 信行 議員
(自民みらい/多気郡選出)



問

東海三県一市知事市長会議で、企業や家庭などで努力しても削減できないCO2を別の場所における削減量などで相殺する、カーボン・オフセットの検討を行うことが合意されました。



「企業の森」啓発パンフレット

県内でも、町有林のCO2吸収量を企業に売却し、その収益を森林保全などに役立てる取り組みが始まるうとしていますが、今後、県では、森林整備に関わるカーボン・オフセットの取り組みをどう進めていくのですか。

答

カーボン・オフセットは、地球温暖化防止のための具体的な行動として有望と考えています。

本年8月に三重県森林CO2吸収量評価認証制度を創設し、「企業の森」などの社会貢献を「見える化」したところであり、森林整備を含めた県独自のカーボン・オフセットの仕組みについて、検討を進めていきます。

その他の質問事項

○宮川流域ルネッサンス事業 ほか

三重県暴力団排除条例案

後藤 健一 議員
(新政みえ/松阪市選出)



問

今議会で上程されている三重県暴力団排除条例案は、県民の不安を一掃して、安全・安心な暮らしを保障し、県民を守るためのものでなければならぬと考えます。

この条例のねらいと、暴力団排除に協力したいが、本当に県民や事業者を守ってくれるのかといった不安感を一掃するため具体的な手法についてお聞かせください。

答

警察対暴力団から社会対暴力団へと構図を転換し、暴力団にノーと言える三重県を構築することで、暴力団の孤立化、壊滅、弱体化を図りたいと考えます。

また、県民への危害を認知した際には速やかに事件化し、暴力団の動きを封圧するなど、警察の威信にかけて、状況に応じた万全の保護対策を講じます。



その他の質問事項

○ゆきとどいた教育の実現に向けて ほか